

間伐した木材はどっになるの？

間伐した木材を森林に放置しておく、これまで蓄積した二酸化炭素を放出することになります。これらが無駄なく有効活用することによって、二酸化炭素の排出量を抑制することにつながります。

いま、この間伐材の活用方法が考えられています。製材工場や合板工場などで加工され、建築資材や家具になるほか、割りばしや封筒、木製小物などさまざまなアイデアによって生まれ変わっています。中でも、注目されているのは製材くずや木の皮などに熱と圧力を加えて押し固めて作る「木質ペレット」。石油や天然ガスなどの化石燃料の代わりに使用する新エネルギーです。

「ペレットストーブ」って、聞いたことはありませんか？このペレットを燃やして部屋を暖めるストーブで、林業が盛んな北欧などで普及しています。煙突タイプのもので、FF（強制給排気）方式



▲木質ペレット



▲ペレットストーブ（FF方式）

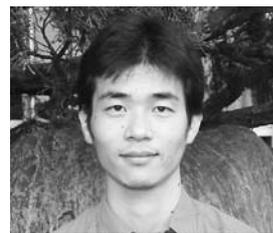
のものがあ、家庭用に作られた小型のものやオープン機能がついたものもあります。タンクにペレットを入れておくと、自動的に少しずつ燃焼部に落ちて燃えます。燃焼時に発生する二酸化炭素は、木が成長する時に吸収し、蓄積していたものであり、1本の木の一生でみると、その量は差し引きゼロとなります。このことを「カーボンニュートラル」と言います。間伐材や木くずなどを有効活用することによって木材の需要を高め、林業の活性化、森林環境保全につながり、新たな二酸化炭素の吸収力を確保することができます。

一方、私たちが日常使用している石油、天然ガス、石炭などの化石燃料は、地球が誕生して以来、長い年月をかけて変成してできたものです。この資源には限りがあり、このまま使い続けると地球上の化石燃料は枯渇してしまう恐れがあります。

新エネルギーへの取り組みは全

日吉町森林組合の取り組み

日吉町森林組合では、独自の画期的な方法で、地域の森林を管理されています。その内容について、小林耕二郎事業課係長（森林プランナー）にお話を伺いました。



私たちの森林組合では、地域の森林所有者の方々と契約し、森林の状態を調査します。そして、今どんな施策が必要なのか、またそれにかかる費用はいくらか、などを記載した「森林プラン」を作成し、所有者に届けます。私たちが森林所有者に代わって状態を確認しながら、そのときに必要な内容を提示させていただくのです。この森林プランには、現況写真や施策にかかる費用だけではなく、例えば間伐をした場合に、その木材の売上想定額やそれに対する補助金なども含めて記載します。

そして、もう一つは、間伐作業に伴う作業道の開設について。一人の所有者の依頼を受けてその部分だけを作業するより、機械が搬入できる作業道を開設し、その経

路付近の森林も同時期に作業を行えばコストが抑えられます。そこで森林プラン作成時に、作業道を開設する付近の森林所有者に理解を求めて、セツトで作業を行います。一度作業道を作れば、次期の間伐の際には作業道開設費用が省けるので、森林所有者の方々に利益が多く残ります。

先代から山を受け継いだが管理方法が分からないという若い世代の方も多く、放置されて荒れている森林が増えています。特に、これまでは『手入れの時代』、これからは『収穫の時代』です。ただ所有しているだけではなく、財産として見直していただき、適正に維持・管理をしていただきたいと思います。

日吉町森林組合は、これらの活動が評価され、平成19年に農林水産祭天皇杯（林産部門）を受賞。

「森林所有者の方々の信頼が第一」と心掛けて、地域の森林環境の保全に努めておられます。

